



KWACHA

No.7

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

大懇親会聞かれる

マラウイ独立 27 周年を記念して、日本マラウイ協会主催の大懇親会が7月6日(土)午後3時から、協力隊事務局食堂で開催された。当日は遠くは四国、京都、愛知、新潟、宮城城からも OB、OG が駆けつけ、7月18日派遣予定の、平成3年度1次隊の2名を含め、総勢50名を超す文字どおりの大懇親会となった。

会は物故隊員への黙祷、マラウイ警察音楽隊(生録音)によるマラウイ国歌吹奏、笛子実元調整員による乾杯の音頭、秋山忠正日本マラウイ協会副会長の挨拶で始まった。

会場には恒例のシマが福田美智子 OG の調理により供され、参加者は懐かしい味を楽しんだ。また今回は、難民への輸出用食料として検討に試するため米粉の試食がシマと同様の調理法により行われた。

会は参加者全員の自己紹介のあと、マラウイに関するクイズ大会が行われ、賞品としてマラウイ茶、インスタントチブクなどが供された。

会場のあちこちには同期隊員や同じ時期に派遣されていた人達、あるいは、時期は違っても任地が同じだった人達、同職種の人達の輪が自然にでき、新旧 OB、OG の交流を深めていた。

最後に屋上に全員集合して記念撮影を行い、来年の再会を約し、盛会のういに散会した。



参加者全員とマラウイ国旗、バンダ大統領のプリントされたチテンジで記念撮影
1991年7月6日 マラウイ独立27周年記念日 ~協力隊事務局屋上にて~

日本マラウイ協会総会開催

平成2年度(第9回)日本マラウイ協会総会が平成3年5月11日(土)午後3時から東京・渋谷のヒルポートホテルにて開催された。

総会は卜部会長の挨拶の後、平成2年度の事業報告、決算承認が行われた。このなかで帰国中の仲井 JICA マラウイ事務所長から、故金次隊員メモリアルファンドによる信号機設置事業(KWACHA 第6号既報)の現地での動き及びリロングウェ市当局の高い評価が報告された。

続いて、平成3年度の事業計画案および予算案の審議があり、マラウイ学生奨学金制度設立事業、現地隊員と協会のつながりを深めるための KWACHA 紙現地配付、

広報活動の充実などについて活発な意見交換があり、両案とも原案どおり承認された。また、役員改選が行われ、今年度の協会役員が別表のとおり決定された。

なお、今回は仲井事務所長の帰国中という好機に恵まれたことから、同氏より最近のマラウイ国内情勢、マラウイへの外国援助の状況、隊員活動の現況などホットな話題についての講演が行われ、出席者から好評を博した。

最後に、秋山副会長から今後とも協会の活動が日本とマラウイの交流の活発化に寄与することを願う旨の言葉があり、総会は終了した。

平成3年度日本マラウイ協会役員一覧

会長	卜部 敏男	(財)日本シルバーボランティアーズ	46-1
副会長	秋山 忠正	(社)協力隊を育てる会 常務理事	
副会長	福永 英二	(社)アフリカ協会 専務理事	
理事	貝塚 光宗	(社)青年海外協力協会 会長	
理事	瀧美 堅持	東京国際大学教授	
理事	池田 憲彦	(財)国際平和協会 理事	
理事	岡田 啓一	(財)日本シルバーボランティアーズ	
理事	河原 昭男	(社)アフリカ開発協会 専務理事	
理事	北村 祐弥	(社)国際建設技術協会 常務理事	
理事	堀添 勝身	(財)ユースワーカー能力開発協会 理事長	
理事	保坂 努	(社)青年海外協力協会元会長 神奈川県議員	
理事	小松 建大	松戸市役所	47-1

理事	山村 俊之	(社)青年海外協力協会 理事	47-1
理事	中小原 淳	(株)団建築設計事務所	49-2
理事	森川 一成	住友電工(株)	50-2
理事	藤村 俊作	青森県教育庁社会教育課	50-4
理事	鶴田 伸介	(株)地域計画連合	51-1
理事	小野 修二	国際協力事業団	
理事	吉田 均	磯村豊水(株)	52-2
理事	上田 秀篤	国際電信電話(株)	53-4
理事	沢村 信英	国際協力事業団	57-2
理事	室伏 春彦	警視庁	58-3
理事	浪岡ひさ子	帝京大学医学部付属病院	60-1
理事	河野 進	国際電信電話(株)	63-1
理事	松木麻弥子	国際協力総合研修所	56-3

大懇親会に参加して

62年3次隊 電話交換機
伊藤 勇

帰国後1年以上がたち、マラウイの記憶も薄れかけていたときに届いたマラウイ協会からの懇親会の案内状を見て、思わずマラウイのことが懐かしくなり、会社を休んで会に参加した私ですが、開会の辞の後に流れたマラウイ国歌を聞いた途端、気分はすっかりマラウイ隊員となってしまった。

久々に食べたシマ、そして難民援助用に開発された玄米から作られた白くないシマは、両方とも、帰国後すっかり贅沢になってしまった自分にとって思っていたよりずっとまずく、こんな食料をマラウイにいたころ結構美味しがって食べていた自分や、今現在マラウイで食べている隊員がとても不慣れに思えた。最近、飽食のためぶくぶく肥ってしまった自分だが、またマラウイにさえ

行けば簡単に痩せられるだろうなとも思った。

会の後半に行われた豪華賞品付マラウイクイズ大会では、マラウイに関する様々な問題が出されたが、帰国後何年もたっている大先輩の方々が、難しい問題を次々にクリアしていたのには驚かされた。ちなみに、私はムランジェ山の標高(2998m)を解答して最後の賞品を獲得し、大喜びしてしまった。

また、久々に会うマラウイ帰国隊員との会話も弾み、任国で築探さを改めて感じさせられた次第である。

懇親会の開催地が東京であったため、地方に住んでいる人や仕事のある人は参加出来なかったが、今後は開催日や場所等をもう少し考慮し、より多くの人々が参加出来るようになれば、会はずっと盛り上がるだろうと思う。

今回残念ながら参加出来なかった皆さん、来年は是非誘い会って参加しましょう!

帰国報告

62年3次隊 体育
福田美智子

新規の体育隊員として1989年4月、リロングウェのKamuzu Institute for Youthに赴任した。

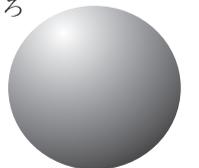
最初、プランタイアへ赴任する予定であったが、例のごとくマラウイに着いたとたん失業者となり3ヶ月を過ごした。体育から陸上競技へと職種が変わり、「グラウンドはあるのだろうか? 道具は揃っているのだろうか?」と、いろいろ心配をしたが、ムズズ、プランタイアそしてリロングウェの3大都市には、おのおの400mのトラックが取れるスタジアムがあり、大きな競技会も行われている。カムズ・スタジアムのスタンドは国立競技場なみのスタンドであり、現在増設している最中である。当時これらの立派なスタジアムを見て驚いたものだ。

陸上競技は道具を余り必要としないが、競技会に使用する用具が揃っていたのに、また驚かされた。しかし、あるだけで理解して使用されているとは言えない。それでも彼らは彼らなりに、今までもこれからも一生懸命にやってくだろう。

マラウイの中・長距離選手は東アフリカ内では優秀で、今年2月にジンバブエで行われたロードレース32kmに5名が出場し、2位、5位、7位、8位、10位という成績で総合優勝している。

練習に対しては熱心で意欲もあるが、その反面、怪我をしたりシューズがなかったりするとサボろうとしていた。そんな彼らの汗を流した笑顔を、今は懐かし思う。

今年8月の世界陸上に来ると言っていたが来れるのだろうか? 今は会えることを楽しみに、彼らの来日を期待するばかりだ。



私の中の協力隊

62年3次隊 臨床検査技師
工藤知子

目覚し時計に起こされ、疲れの残る体をやっとのことでベッドから離す。顔を洗い朝食を取る。軽く化粧をし、口に紅をさす。時計を見て慌てて家を出る。そして電車で駆け乗る。私の一日の始まりである。病院に着き、誰よりも早く検査室に入る。朝の検査室、まるで深夜の市場のようにひっそり静まりかえっている。そして刻々と人の出入りと共に忙しくなっていく。入っているお茶を飲む時間すら惜しんで仕事をする。体に疲れを感じてくる頃、ふと時計を見る。すでに午後5時を回っている。今日は遅番、あと3時間はこの忙しさの中にいなければならない。こんな日の中にも勉強会があったり学会に参加したりと、技師としてやりがいがあった訳でもない。だが、社会に出てからずっと変わらず思っていることがあった。『こんな生活ではだめだ。自分にはもっと他に自分に合った仕事があるのではないかなんとかしなければならぬ。』という思いが現実の自分と葛藤していた。そしてそんな状態で何年も仕事を続けていた。本当に進みたい道を見いだせないまま協力隊に参加した。

マラウイでの3年間、過ぎてみるとやはり自分との葛藤の日々であったように思う。こんな事をしたい、やりたい、けど思うように進まない、できないの繰り返しであった。マラウイに赴任した時から考えていた。協力隊活動終了後、一体私は何をやって生きて行ったらいいのか。以前の生活には戻りたくないと思っていた。そんな事を考えマラウイでの2年間が過ぎ、3年目もその答えは見いだせないまま帰国となった。

3年振りの日本、何も変っている物はなかった。進路指導の研修時、自分の進路について何をやりたいのかという事すら答えられずにいた。

そして故郷に帰った。故郷で過ごした1ヶ月の間、いろいろな情報が私の耳に胸に入ってきた。TVを通し映像で見る途上国の姿は悲惨なものであった。それが全てではない事は自分が一番良く知っている。そんな中でも彼らには幸福があるという事を。だがその悲惨な映像は虚像でない事も事実である。深刻な彼らの現実なのである。その時、私の心は大きく揺れ始めた。彼らのために生きたいと切に思った。ずっと昔から探していたものをやっと思つたような思いであった。それを自分の目標に生きたいと心から願った。それがどれだけ難しい事かは、帰国して日本の社会を見ていたら解る。けど自分を偽り生きたくない。不安は重なるばかりだが、今の自分は小さな幸せを得た気分である。

協力隊参加、自分にとっては生きるための道しるべだったように思う。人として大切な事を教えてもらった。この時、やっと思つた協力隊活動に一つの区切りをつけることができたと感じた。

遙か遠くに頂上が見える登山、一生かかっても登りきれないかもしれないが、生涯をかけ努力して行けるような気がしている。

今、帰国して4ヶ月が過ぎた。まだ朝の通勤電車で駆け込んでしまっている。だが、口紅をさすことを忘れてしまった自分を感じる。

ジェレさん招待についてのお願い

60年3次隊
進藤寿則

皆さん、JOCVマラウイ事務所で14年以上にわたりタイピストとして働いているジェレさんのことを覚えておいででしょうか。愛想の良いマラウイ美人(太っている?)の彼女です。人によっては所属先への英文のレターを作成してもらったり、所

属先との交渉等でお世話になったりと、思い出も色々あるかと思ひます。何度か彼女を日本に招待しようという計画があったと聞いておりますが、その度に立消えとなり、ジェレさんはがっかりしていたそうです。

今回、マラウイOB/OGの私達【進藤寿則(60-3)、(野田)澄子(62-2)】がマラウイに旅行した折にマラウイ事務所の調整員から、この話を聞きました。マラウイ隊員OB/OGの協力で招待するとすれば、OGの田島弘子さん(61-3)がマラウイ事務所で調整員として働いている今が、現地での連絡や手配等を考えると最後のチャンスになるのではないかと思います。帰国後、親しい隊員OB/OGと話すうちに、何とかジェレさんを日本に招待しようという事になりました。

計画としては、ジェレさんに日本の紅葉を楽しんでもらえる様に、今年の11月頃に10日間前後の旅行に招待できればと考えております。計画実現の予算としては、案内する人の旅費などは手弁当としても、別記の様には100万円弱が必要となりそうです。発起人だけで負担するのはなかなか大変なため皆さんのご協力を募ろうということになりました。

旅が無事に終了したときに決算報告とともにジェレさんからのお礼状をお届けしますので、ご迷惑かとも思いますが一口5000円以上のカンパにご協力ください。

また、一日ぐらいならジェレさんを手弁当で案内しても良いという方、同じく一日ぐらいならば自宅に招待しても良いという方がおられましたら、そういった形のボランティアも募集しておりますので発起人までご一報ください。そして、今回の計画への助言、アイデアなどもありましたらご一報ください。

■発起人:

【代表者】 進藤寿則(60-3)
藤本 誠(58-2)
横山秀夫(60-1)
堀 孝司(60-3)
田島弘子(61-3)
鈴木ゆずみ(61-3)
徳丸同志(62-2)
二瓶陽子(旧姓 蓮池)
(60-1)
進藤澄子(旧姓 野田)
(62-2)

■総予算:

・エアチケット	300,000
・国内での交通費(2週間)	100,000
・ホテル、旅館 12,000 × 14	168,000
観光費 10,000 × 6	60,000
昼食代 2,000 × 14	28,000
雑費 5,000 × 14	70,000
おみやげ代	50,000
予備費	50,000
・通信費	115,000
合計	941,500

■旅行予定地:

東京、名古屋、京都、大阪、広島

■募金方法:

郵便振替用紙に御住所と御芳名を記入の上、最寄りの郵便局から御送金をお願いします。一口5,000円で、何口でも結構です。口座番号は「東京6-557239」加入者名は「ジェレさん基金」です。

■募金のメ:

1991年9月30日(なお、これ以降もジェレさん来日まで受け付けます。)

■ボランティアの受付:

郵便振替用紙の通信欄に記入して頂くか、下記まで直接ご連絡ください。
〒331 埼玉県大宮市指扇 2668-3
進藤 寿則
TEL048-622-9378
(8:00PM ~ 11:00PM)

■HAPPY WEDDING NEWS

63年度1次隊の河野進OB(無線通信機)と東典子OG(助産婦)は平成3年6月29日ご結婚されました。

■ビデオ貸出しのお知らせ

KWACHA第6号でお知らせしましたように、日本マラウイ協会では最近のマラウイ国内を撮影したビデオを会員の皆様に郵送料のみのご負担で貸し出しております。今回新たに1本が加わり合計4本あります。(全てVHS、1本120分)会員以外の方にも有料で貸し出しますのでご希望の方は葉書で右記の当協会までお申し込みください。

■現地隊員の皆様へ

KWACHA編集部では現地隊員の皆様からのお便りや原稿をお待ちしています。ご自分の活動内容に関するもの、住んでいる町の話、隊員間で話題になっていること、当協会に希望することなど何でも結構です。随時KWACHAに掲載し、お手伝いできることをしたいと考えています。宛先は右記をご参照ください。

入会のおすすめ

日本マラウイ協会(Malawi Society of Japan)は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1000円+3000円=4000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒106 東京都港区南麻布 5-10-24 第2佐野ビル 701

日本マラウイ協会 TEL03-3447-2921(昼) TEL03-3304-5341(夜)

●三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会会長 卜部敏男

●郵便振替 東京9-13125 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の方で平成3年度会費を未納の方は上記口座へ送金をお願いします。(個人正会員年3000円)

協会からの
お知らせ